

市民と市長の意見交換会

No	日程	場所	質問内容	関係局	回答者	回答
1	H27.7.21	国分寺会館	<p>少子高齢化というのは悪い印象があるが、逆手にとってやる必要がある。少子化の対応についてはカウントの機嫌をうかがうしかなく、多少はよくなるかもしれないが、高齢化は止めようがない。特に、会社をリタイアされた60歳台から70歳台の方は、社会が支えてくれるという考えの方が大変多い。元気なうちは社会を支える側に回ってほしい。それには会社をリタイアされた時に、こういうことが支える側でできるという意識改革をしなければならないが、個人ではどうしようもない。行政側でそういう方に意識改革できる事業をしてほしい。老人クラブを単に支援するだけでなく、うまく老人クラブを使ってほしい。私も老人クラブの一員であり、まだまだみんな元気なので、これがやれるということがあると思う。いろいろな計画の中で老人力を利用するということがないと思っているので、何らかの検討をいただきたいと思う。</p>	健康福祉局	市長	<p>元気で健康な高齢者は、ボランティアや公共サービスを施す側になっていただき、生活支援の担い手として活躍することを期待している。 老人クラブについても、寝たきり高齢者やひとり暮らし高齢者等を訪問する友愛訪問活動などのボランティア活動を行っている。 今後とも、各種活動を企画・指導できる人材育成を促進し、老人クラブが社会貢献の担い手として、活動できるよう、連携・支援に努めていきたい。</p>
2	H27.7.21	国分寺会館	<p>クーラーをつけるとかそんなものはいらぬ。気軽に4人でも5人でも高齢者が来られるという感じにすれば、もっと広がっていくと思うが、なかなか広がらない。お世話する人がそれはなかなかできないので、まあいいかとなるのが現実と思う。</p>	健康福祉局	市長	<p>高齢者の居場所は、高齢者が集える場所として快適に利用いただくために施設整備補助を行っている。参加人員をおおむね10人としており、毎回10人集まらないと対象にならないことではない。 地域のボランティア活動のきっかけとなることにつなげていきたい。</p>
3	H27.7.21	国分寺会館	<p>既に進行している居場所づくりについて、300か所をやるとのことで、それなりの助成金が出るが、かなりシビアで条件的に厳しい。週1回、月4回以上などと制約があると、お世話する方が、それはなかなかできず、尻込みしてしまう。要件を緩めるなどしたら、助成金は少なくていいからどうか、それならやってみようとなるのではないかと聞くので、再度考えてほしい。 次に、聞くところによると、乳幼児の検診が桜町に行かなければ受けられないと聞くが、桜町まで出かけて行くとなると、駐車場の問題もあるが、こちらであれば検診がすぐできる。たくさん子供を産んでほしいといっても、なかなかそうもいかないのではないと思う。こういうことがあるからそうなったという理由があれば詳しく説明してほしい。</p>	健康福祉局	市長	<p>居場所づくりについて、開催回数を週1回以上を要件としているのは、最低週1回以上外出することで、閉じこもりや認知症の介護予防につながると考えているものである。 居場所の実施に当たって、最も大事なことは、それぞれの居場所がそれぞれの特性を生かして、何をやるか、どういうふうにしてやるかである。 地域の方々がお世話をするというだけでなく、できるだけ参加者が自発的に運営等に取り組むことを期待している。 今後については、個別に相談しながら、地域にあった、よりよい居場所づくりができるよう工夫をしたい。</p>
4	H27.7.21	国分寺会館	<p>乳幼児の検診が桜町に行かなければ受けられないと聞くが、桜町まで出かけて行くとなると、駐車場の問題もあるが、こちらであれば検診がすぐできる。たくさん子供を産んでほしいといっても、なかなかそうもいかないのではないと思う。こういうことがあるからそうなったという理由があれば詳しく説明してほしい。</p>	健康福祉局	健康福祉局長	<p>現在、各保健センターで行っている1歳6か月児健診及び3歳児健診については、急速な少子化の影響などから、個別実施が困難な状況になってきている。このため、桜町の保健センターで集約して実施することにより、受診日の選択の幅が広がり、受診率の向上にもつながるものと考えている。 また、地域行政組織の再編時においては、桜町の保健センターで行う健診の際に、言語聴覚士や心理相談員による助言や支援を健診と同じ日に行うよう計画しており、保護者の不安感や再訪の負担が軽減されるものと考えている。</p>
5	H27.7.21	国分寺会館	<p>「第6次高松市総合計画」の中で、「大学等高等教育の充実」とあるが、具体的にどういふことを意味しているのか。 もう一つ、公共交通の利便性の向上と、拠点性を高める道路のネットワークの整備とあるが、国分寺町は合併して10年になるものの、その当初に計画された道路計画が全く進んでいない。合併特例法が5年延長したが実現する可能性があるのか。10年でできないものが5年でできるのか疑問に感じる。この2点について聞きたい。</p>	市民政策局	市民政策局長	<p>「大学等高等教育の充実」について、人口の動態を見ても、高校を卒業されて進学か就職という時に本市から県外に転出される方が多く、転入より転出が多いという特徴が本市にはある。そういう状態を見た時に、大学や就職先といった点について本市において、しっかりと受け皿を持っておく必要がある。特に進学先となる大学は、進路を考えるときに県内の大学に行きたいと思ってもらえる。魅力のある高等教育機関にしていく必要があると考えている。 また、大学との連携が今後大事になってくるので、香川県内の7つの大学、香川大学も含めて、学長と市長を交えて協議をする場を設けて大学側の意見を聞きながら、市と大学でどのような連携をしていくべきか、議論を始めている。</p>
6	H27.7.21	国分寺会館	<p>立派な計画で6つの目標があるが、大きく、「～の支援」とか「～の構築」とか具体策がないが、私たちに知らせてくれる機会はあるのか。それがあればチェックもできるし、冊子を出してもいいし、この資料を見ただけでは、全然読めないものでその点よろしく願いたい。 それから、国分寺地区は都市計画区域でなかったのが、道が細く、災害の時に困るのではないかと感じる。そのあたり、どう考えているか教えてほしい。</p>	市民政策局	市民政策局長	<p>個別の施策については、今回説明しているのは基本構想という部分なので、これが2階建てだとすると、1階の部分はまちづくり戦略計画というのがある。基本構想の実施計画について、まちづくり戦略計画という形でまとめたい。それについては、来年度の当初予算の形でまとめるので、ただちにこういう施策が、事務事業がというように説明できないが、概ね第5次の基本構想で掲げている施策事業を基本的に継承しようという考え方に立っている。ただちにどんなものがあるかについては、ホームページなどで第5次の計画に基づく今のまちづくり戦略計画を見ていただくと確認できる。</p>

市民と市長の意見交換会

No	日程	場所	質問内容	関係局	回答者	回答
7	H27.7.21	国分寺会館	<p>第6次計画を策定するに当たって、第5次計画の進捗、実現、成果が上がったのかを検証していく必要があると思う。前回の対話集会では国分寺を含む西部地域については、都市と農村との調和のとれたまちづくりということでそれぞれゾーンごとに、地域の特徴を生かしていくと説明があったけれども、それをどのように検証して、ゾーンごとの推進をどのように第6次計画に入れていこうとしているのか聞きたい。</p> <p>端岡駅の再開発について、私も老人クラブの関係で検討委員会に呼ばれて市との話を進めてきたが、地元でまともれば市も協力していこうという引っ込み思案な考えでは進みにくい。それぞれ地権者の利害関係があるので難しいと思うが、総合的に全体的に地域的に考えればどうしてもやらなければならないことだという姿勢で、行政は積極的に住民に対し説得力を持って力を入れて進めてほしい。要望として申し上げる。</p> <p>3つ目は、高齢者の問題で、先般、コミュニティ協議会で、第6次の保健福祉計画の説明があり、これから3年間、市の介護保険料は上げなければいけないと説明があった。所得は上がらないのに保険料負担が大きくなるという、更に説明を聞くと医療に対して国、県、市が負担する制度になっているという。私は、これだけ多くの医療費がかかっている、この医療費を何とか抑制できる対策をもっと真剣に考えなければいけないと思うし、高齢者が増え、医療費も増えるとなると、先の見通しが暗い。市のやっている健康診査とか、巡回のがん検診などは、受診率が低い。受診率が高くなるように対策をとらないと、病気になって医者にかかるのではなく、早期発見、早期治療が進むと医療費も抑制されるのではないかと、ですから受診率を上げる方法を考えなければならない。市から通知書が届くけれど、受診した人には何かメリットがあるというものを出せば、受診率が上がり、それが医療費の抑制につながるのではないかと。岡山県のある市では、PPKといって、びんびんころりと、丈夫で、寝込まない人生を送るという地域で行う健康維持のための活動に対し、市から助成金を出している事例がある。病気にならない事前の対策をとってもらい、それに対して市が財政的な支援を行うことを検討してほしい。</p> <p>最後にコミュニティの問題で、コミュニティ活動は、極端な言い方をすると、支所の役割をコミュニティにやらしていると言う人がいる。今まで合併前は国分寺町に行ったらやってくれたが、今では支所に行ってもなかなかやってくれない。市はコミュニティに対し、地域の活動を自らが行うよう指針を出しているが、コミュニティに力を入れるのならば人的支援措置を行って、もっと活動がやりやすいようにするべきではないか。</p>	市民政策局 健康福祉局	市長	<p>超高齢化社会の問題については、2000年に介護保険制度が始まって15年が経ち、当初は月額約3,000円だった介護保険料が、月額約6,000円と倍になっている。</p> <p>今一番の問題は、2025年問題というものがある、今年、団塊の世代が全員65歳以上の高齢者になり、10年後の2025年には75歳以上の後期高齢者になる。65歳から74歳の要介護認定率は、わずか数%だが、75歳以上では3割、4割になり、急激に医療や介護を必要とする状態になることから、それに伴って増大する費用を、誰がどのように負担するのか、今以上に大きな問題になる。</p> <p>それに備えて、今からしっかり対応できるような仕組みを構築していこうという考えを打ち出しているのが、地域包括ケアシステムで、介護予防、健康診査をきちんと行い、病気になる、要介護状態にならないよう事前に予防して、健康社会、高齢化社会でも健康社会で、医療や介護の給付費がそれほど大きく伸びない状態を目指すものである。</p> <p>本市としても、団塊の世代が全て75歳以上の後期高齢者となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で済み続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいるところで、今後、介護予防・日常生活支援総合事業を実施する中で、住民一人ひとりの状況や地域の実情に応じた介護予防事業を展開するとともに、地域ぐるみで取り組む介護予防の体制づくりに努めていきたいと思っているので、御協力をお願いしたい。</p>
				市民政策局	市民政策局長	<p>指摘のあったとおり、今回の説明資料の中で、第5次計画に触れていないのは反省点である。記憶にある範囲内であろうと、合併の建設計画に関しては6町平均してみると、8割か9割の項目は着手済、又は完了済という状況である。道路関係の事業は地区によってうまくいっていない部分が現実にあるが、トータルで見ると概ね順調ではないかと評価している。総合計画については8年間の計画で、毎年、満足度調査をしており、市の行う施策について、市民の皆様にとどの程度の満足度があるのか、あるいは不満度があるのかを毎年度分析をして次年度の計画に繋げている。具体的に紹介すると、公共交通の施策について、不満度が高いとか、交通安全に関して、事故が多いということで、マナーが悪いということがあり、そこをしっかりとやらないといけないという分析の結果が出ている。更には満足度に合わせて市の施策として、市民の皆様からみて重要な事業はどれかについても聞いており、私どもとしては、不満度が高いものに力を入れるという反省を、毎年度行っている。次期の計画についても、そういった分析をしながらやっていこうということで、ただ基本線は第5次計画の時から人口減少ということを念頭に置いた計画づくりをしているので、大きくは継続的な考え方をベースにしているが、それに併せて、時代の変化に合わせた部分の政策転換をやっている、その時に市民の皆様のご満足度を押さえていこうという考えである。</p> <p>コミュニティの問題を指摘いただいた点について、今、44地区のコミュニティにおいて、長いところでは発足から10年という期間が経過しており、模範的にコミュニティ活動をしている地区もあれば、問題をかかえている地区もある。温度差が出ているのがこの10年間の様子であって、担当課では10年間を振り返り、何を反省すべきなのか検討しており、今後の10年間どうすればいいのか、総括しようという作業をしている。その中で、大事なポイントとして自治会の加入率があるが、市としてコミュニティ協議会に対してどのような支援が必要なのか議論を進めている。人材の養成の問題、スタッフの問題等があるものと受け止めているので、しっかり検討していきたい。</p>
				健康福祉局	健康福祉局長	<p>医療費と介護費用について、介護保険料は、保険料基準額の月額で申しあげると、今年度から6,125円に上がり、これは介護費用を高齢者人口で割り戻した金額ということで皆様にご負担いただいている。</p> <p>医療費を削減するためには、まずは医療費に関しては、最近ではジェネリック医薬品が相当出回っており、できるだけ利用してほしいということで本市としても推奨している。</p> <p>また、医療費の中では、生活習慣病に関する医療費が多くのウエイトを占めており、特に糖尿病になると重篤な場合は透析が必要になるので、全国平均で一人当たり500万円ほどかかる。この生活習慣病への対応、取組として、食生活や生活改善を推進するほか、特に介護予防にも有効な高齢者の居場所整備を、市内で300か所程度進めていくことにしている。</p> <p>また、健康診査やがん検診については、対象者に個別通知するとともに地区保健員会を通じてのPRや電車・バスのラッピングを行うなど受診促進の啓発活動を行っており、今後においても、早期発見・早期治療の観点から、啓発活動の積極的な実施により受診率向上につなげていきたいと考えている。</p> <p>また、健康診査後、メタボリックシンドロームが疑われる人に対し、保健指導を積極的に実施することで、症状の改善や生活習慣病の重症化予防に努めている。</p>
8	H27.7.21	国分寺会館	<p>質問ではないが、お願いがあった。</p> <p>鷲ノ山の農薬の空中散布を是非止めてほしい。私の家は鷲ノ山の近くにあるが、空中散布の日になると、頭は痛い、のどは痛い、一日中寝込むことになる。匂いも私にとっては気分が悪くなる。そのヘリコプターの下を通過して子供を学校にやるのは本当につらいので、鷲ノ山の農薬の空中散布を止めてほしい。</p>	創造都市推進局	市長	<p>鷲ノ山は、森林資源と豊かな緑を確保するため、保全すべき松林として指定している区域で、鷲ノ山では、松が多く生育し、山地災害の防止を始め、水資源の涵養、景観保全など多面的な公益的機能の発揮に貢献している。松の保全には、松枯れを防ぐため松くい虫被害対策としての予防と駆除の一体的な取り組みが必要で、松くい虫被害の予防対策としての薬剤防除には地上散布と空中散布があるが、鷲ノ山は急峻な地形であり、地上散布が困難なため空中散布を実施している。</p> <p>実施の際には、国が定めた安全性の高い薬剤を使用し、風向・風速を観測して散布区域外への薬剤の飛散がないようにしている。</p>

市民と市長の意見交換会

No	日程	場所	質問内容	関係局	回答者	回答
9	H27.7.21	国分寺会館	<p>まちづくり目標2「心豊かで未来を築く人を育むまち」の子供の安全確保、青少年の健全育成、家庭・地域の教育力の向上に関して、子供たちにとっての3つの間である仲間・時間・空間の3つの間が減少していると言われて久しい。仲間については、特に国分寺町はマンモス校、2つの小学校とも800名、中学校も800名もいる。時間も、習い事やゲームで奪われていると言われるが、今も昔も変わらず24時間ある。空間だけが大人たちによって奪われているのではないかと危惧しており、そこは大人がどうにかしてあげたいところである。</p> <p>子供たちの空間、具体的には公園について、砂場は対人関係のコミュニケーションスキルや、大きい子が小さい子を思いやる心、親や、学校の先生以外の地域の大人たちの目によって安心感を得られたり、善悪の判断を学ぶ重要な場だと思う。また、子供だけでなく、高齢者がまちに出る機会、場所として重要な役割を持つのではないか。</p> <p>つい先日、市長に対しメールで質問し、一小学校に一つの公園をという計画で、それが間に合わない場合はちびっこ広場をという回答をもらった。国分寺町には一小学校に一つの公園があり、ちびっこ広場もあるので後回しになっていると思うが、非常に子供の数の多い未来のあるまちだと思っている。3,000人も子供がいるのに、暑さのせい以外で子供たちの声は聞こえない。子供一人当たり、人口一人当たりの公園の広さという観点を入れて公園設置について考えていただきたい。ちびっこ広場もあるが、「ボール遊び禁止」と書かれていて遊べない。田んぼや、工場跡地は店や住宅になって、田んぼも昔のように入って遊べない、人間関係の希薄化が進んでいるのは、他のまちと変わりがない。</p> <p>その辺りのところを今の段階でかまわないので聞かせてほしい。</p>	都市整備局	都市整備局長	<p>本市では、第5次高松市総合計画に掲げる「人と環境にやさしい安全で住みよいまち」を実現するため、平成22年9月に第2次高松市緑の基本計画を策定し、「1小学校区1公園」の整備を目標としている。</p> <p>この取組を効果的に進めるため、平成26年度に高松市まちづくり戦略計画の重点取組事業として、「身近な公園整備事業」を創設し、公園の適正配置を計画的に進めており、30年度までに、公園が無い3小学校区において、優先的に公園を設置するとともに、公園が少ない小学校区においても、市有地を活用できる場合は、地域の要望を受け、公園整備を行うこととしている。</p> <p>国分寺地区については、一人当たりの公園面積が多い地区であることから、当分の間、公園整備は難しい状況だが、指摘のあった「子供一人当たりの面積」については、31年度以降の整備の中で検討したい。</p> <p>今後とも、この身近な公園整備事業を計画的に進めるとともに、橋ノ丘総合運動公園や如意輪寺公園など、既存公園を適切に維持管理することにより、子どもたちの健全な育成を図る場を創出していきたい。</p>
				都市整備局	市長	<p>少子化対策等もあるが、親が共働きの方が非常に多くなったという観点から子供たちの健全育成のために、子供たちの居場所づくりが必要かと思う。今、高齢者の居場所づくりということで、徒歩圏500m範囲内で1か所、全地域で300か所くらい作ろうとしているが、子供たちも一緒に高齢者と時間を過ごせるというのをモデル的にやっている地域もいくつかあり、子供たちも介護する形で活用してもらいたい。放課後児童クラブの待機児童解消と併せて子供たちが地域で集まってお互いにコミュニケーションを取りつつ、人間性を育みながら時間を過ごせる居場所づくりを考えていきたい。</p>
10	H27.7.21	国分寺会館	<p>「第6次高松市総合計画」の中で、「大学等高等教育の充実」とあるが、具体的にどういことを意味しているのか。</p> <p>もう一つ、公共交通の利便性の向上と、拠点性を高める道路のネットワークの整備とあるが、国分寺町は合併して10年になるものの、その当初に計画された道路計画が全く進んでいない。合併特例法が5年延長したが実現する可能性があるのか。10年でできないものが5年でできるのか疑問に感じる。この2点について聞きたい。</p>	都市整備局	都市整備局長	<p>公共交通、道路等の整備が全く進んでいないという厳しい意見をいただいたが、建設計画に記載されている事業の中で、現在、南部中央線、通学路の狭い道の拡幅整備を、26年度予算5,000万円余り、27年度予算は2,600万円余り等で進めている。今年度は橋りょうの上部工等の整備を進めることとしており、順調にいけば、年度内に供用ができる見込みである。</p> <p>もう1点が端岡駅前整備で、これについては、初めは全体として進めていきたいということで地元の方と話を進めてきたと理解しているが、なかなか話の整理がつかず、北側と南側を分けて整備を進めるということで、今は北口の整備を進めている。26年度に詳細設計をして今年度の物件調査等、用地の交渉をして、順調にいけば今年度工事の発注をしていけると思っている。ただ、北口は整備検討協議会の中で協議させていただき、なんとか進めているが、南口は協議が中断している状況である。地元でのこういった路線でという話を、もう少し整理していく中で進めていかなければと思っているが、なかなか進んでいない状況である。</p>
11	H27.7.21	国分寺会館	<p>南側の件について、地元でということでは片付かないし、できない。こういう場合は、高松市が主導してやっていただきたい。これは地元の強い意見であり、いくら5年間頑張っても解決できない。やるだけのことはやるという方法で市政の側に立って市の方でやっていただきたい。</p>	都市整備局	市長	<p>合併の建設計画に基づく事業で端岡駅のアクセス向上は、合併当初から重要事項として重点的に当たっているが、どうしても話がまとまらず、今日に至っている。地元の反対を押し切ってもと言われるが、やはり個人の用地買収に関わる話なので、もちろん計画を丁寧に一から地元に入って説明しながら合意を作り上げていく努力は精一杯やっていきたいと思う。また、合併特例法の活用が5年延長され、10年でできないものが5年でできるのかという厳しい状況もあるが、お互いに現在の状況について共通認識を持った上で、市が地元に入って話し合い、まとめていく、その努力は精一杯していくことに尽きる。</p>
12	H27.7.21	国分寺会館	<p>市長や局長も端岡百福橋を通過して来られたと思うが、帰りに支所の東隣にあるガソリンスタンドの裏側を通り、学校橋、万灯橋を抜け、そこから端岡駅まで抜けてみてほしい。1日の乗降客が2,700人、この道路を朝の7時から8時まで、小学校、中学校、高等学校の通勤・通学を車も含めて、朝の時間に事故が起きないのが不思議なくらい混雑している。そんな呑気に言っている場合ではないと思う。やはり市が主導的にやってもらわないと、皆が触りたくないというのが本音であると思うが、その点で先頭に立ってやっていただきたい。</p>	都市整備局	市長	<p>道路状況について、非常に厳しい状況があると認識しており、将来的に道路を作ったら交通環境が良くなる計画で、最重要事業と位置づけている。今後とも一生懸命、市として主導性をもってやっていく。ただ、地元合意が得られないことには、勝手に市が強制的にやるというわけにはいかないので、その努力を精一杯続けるということに尽きる。</p>
13	H27.7.21	国分寺会館	<p>立派な計画で6つの目標があるが、大きく、「～の支援」とか「～の構築」とか具体策がないが、私たちに知らせてくれる機会はあるのか。それがあればチェックもできるし、冊子を出してもいいし、この資料を見ただけでは、全然読めないのその点よろしくお願ひしたい。</p> <p>それから、国分寺地区は都市計画区域でなかったため、道が細く、災害の時に困るのではないかと感じる。そのあたり、どう考えているか教えてほしい。</p>	都市整備局	都市整備局長	<p>一般的に申しあげて、道路整備の方法は本市では3つに分けられる。</p> <p>1つ目は都市計画道路といって、拠点と拠点を結ぶ、あるいは、他の都市と結ぶ幹線道路を都市計画に基づいて整備するもの。</p> <p>2つ目は、先ほど今一つ進んでいないと指摘があったが、国分寺町のように合併時の協議により建設計画に記載し、整備している道路。</p> <p>3つ目は、生活に身近な、生活関連道路で4mに満たない部分がある道路を広げていこうというもので、一般的に請願道路という言い方をしているが、地元からの要望に基づき、土地の買収代金は極めて低い値段で、地元の協力の下に進めていくというやり方で、年間一定の予算の中で、合意がまとまったところから実施していくものである。</p> <p>念頭にある箇所について、具体的に相談いただきたい。</p>